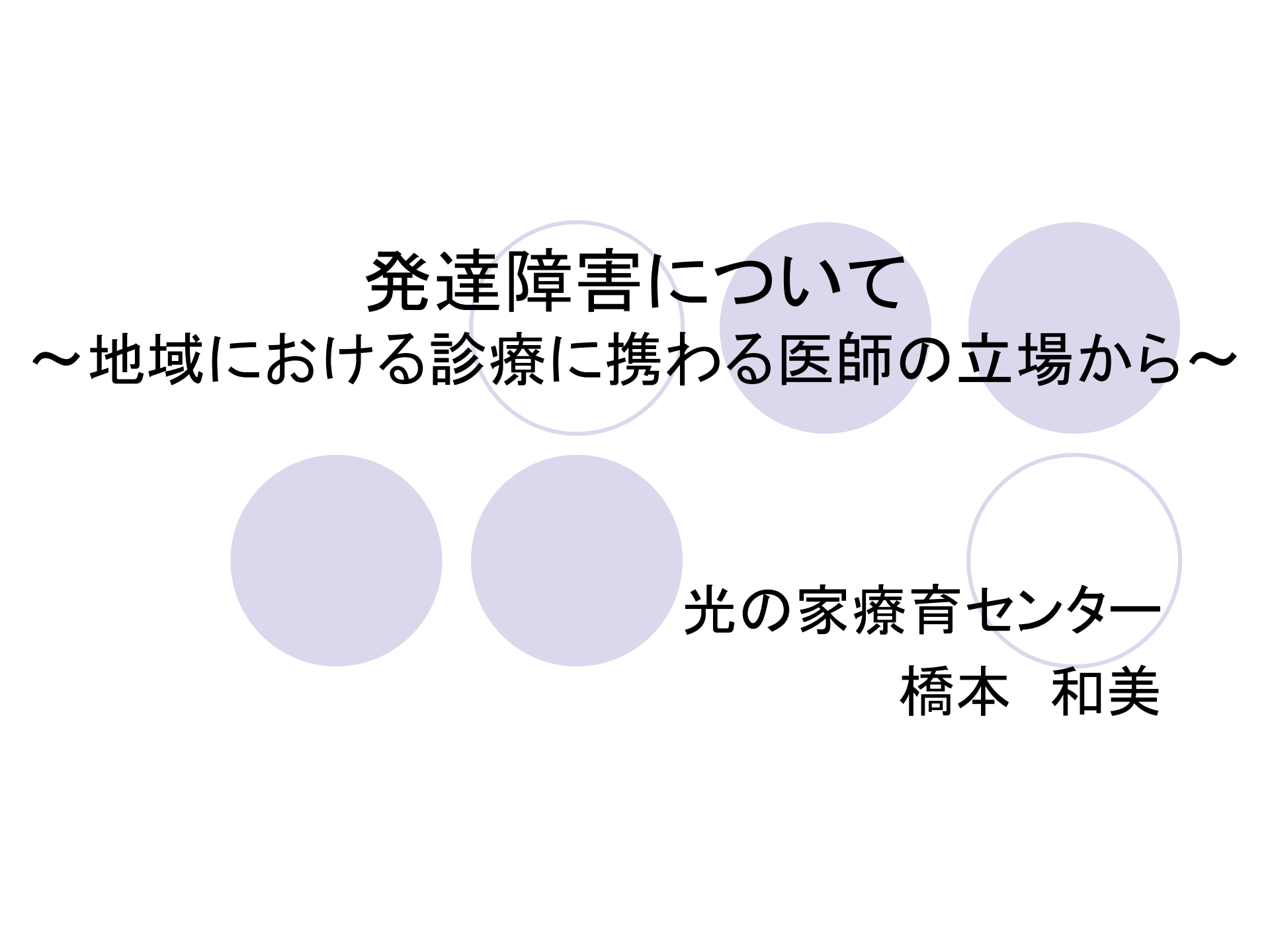




発達障害について ～地域における診療に携わる医師の立場から～

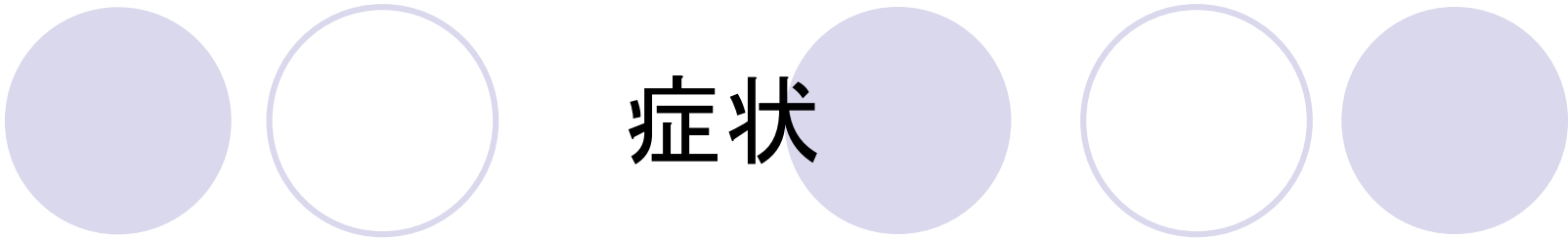
光の家療育センター

橋本 和美

発達障害とは？

生まれつき、あるいは、子どもの発達過程の早い時期（幼児期）までに、様々な原因によって生じた、種々の能力の発達の遅れや、ゆがみがある状態のこと。
ただし、その遅れやゆがみが、**日常生活に明らかな支障を来すほど**でなければ障害とはいわない。





症状

- ・発達「遅れ」・・・同じ年齢の大多数ができることができない
- ・発達「偏り」・・・通常の発達の子供に見られる行動であるが、その程度が通常範囲を超えている
- ・発達「歪み」・・・通常の子供に見られない行動がみられる

発達障害者支援法の定義に従うと...

「発達障害」とは

- 自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現する障害

● 神経発達症候群 (DSM-5) ●

- 知的能力障害
- コミュニケーション症群; 言語症、語音症、小児期発症流暢症(吃音)、社会的(語用論的)コミュニケーション症
- 自閉スペクトラム症
- 注意欠如・多動症
- 限局性学習症
- 運動症群; 発達性協調運動症、常同運動症
- チック症群

それぞれの障害の特性

- 言葉の発達の遅れ
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、こだわり

知的な遅れを伴うこともあります

自閉症

広汎性発達障害

アスペルガー症候群

- 基本的に、言葉の発達の遅れはない
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、興味・関心のかたより
- 不器用(言語発達に比べて)

注意欠陥多動性障害(AD/HD)

- 不注意
- 多動・多弁
- 衝動的に行動する

学習障害(LD)

- 「読む」、「書く」、「計算する」等の能力が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手

幼稚園・保育園での発達障害を疑わせる行動

- じっとしていない
- 指示に従わず勝手なことをする
- 会話ができない
- 思うようにならないとかんしゃくを起こす
- 他の子供にちょっかいを出したり喧嘩をする
- 突然泣き叫ぶ
- 給食を食べない

など

学校での発達障害を疑わせる行動

- 多動で落ち着きがない
- 忘れ物が多い
- 日常的なおしゃべりは普通にできるのに教科書の音読はたどたどしい読み方しかできない
- 順番やルールが守れない
- 思わず手が出てしまう
- 一方的に話してしまう
- 相手の気持ちが読めない

など

診断の手順

(1) 聞くこと

- ・受診の経緯、困っていること
- ・行動の様子（現在、過去、家庭、園、学校での様子）
 - ⇒ 2ヶ所以上（保護者と園など）で同じ傾向があることの確認が必要
- ・成育歴（運動発達、言葉の発達、生育環境など）
 - ・・・ 過去の振る舞いが特徴をあらわしていることがある、母子手帳
- ・簡単な発達検査



(2) 診ること

- ・診察室での行動の様子

入ってきた時の様子 診察室に入ってこられない児もいる

じっとしてられない 相手も見ずに椅子をくるくるまわす
話に割り込んでくる 椅子に座っていてもどこか体が動いている、周りの物に次々と触れる 会話してもすぐ話題が逸れ自分勝手に話し出す おもちゃでの遊び方 など

- ・身体の診察

- ・保護者のようす



(3) 検査

- ・詳しい発達検査～心理士による
- ・脳波
- ・頭部CT、MRI
- ・採血 など

(4) リハビリ・療育の開始 ～ 発達の評価

- * 単独で診断できる画像検査やチェックリストはない
- * 早期診断の難しさ

発達障害児への支援のしかた

- 子どもの困り感に気づく、つまずいている部分を支援する
- 小さな目標を達成させていく
- いっぱいほめる、小さな成果でもほめる
- 特性を認める

発達障害の共通した治療ゴール

- 各発達障害の症状(特性)に基づく機能障害(生活の中でうまくいかないこと、適応障害)をできるだけ少なくすること
- 二次障害を防ぐこと
- 自尊心・セルフエステイムを高めること
- 自分の苦手な点、得意な点を認識できて、将来、対応を自分で工夫できるようになること



注意欠陥多動性障害
(注意欠如・多動症)

ADHD

ADHDの子供が苦手なこと、難しいこと

● 不注意に関すること

核と
なること

- ① ひとつのことに集中するのが難しく、集中力が長続きしません。
- ② 周りの刺激に気をとられやすく、すぐに気がそれてしまいます。
- ③ 忘れっぽく、よく物をなくします。

ADHDの子供が苦手なこと、難しいこと

● 多動性

核と
なること

- ① 無意識に体が動き、それを抑えられません(体の多動)。
- ② おしゃべりを自分でコントロールできません(口の多動)。

ADHDの子供が苦手なこと、難しいこと

● 衝動性

核と
なること

- ① 自分の感情を抑えることが苦手です。
- ② 自分の発言や行動を抑えることが苦手です。

ADHDの3つのタイプ

- **多動、衝動性が主なタイプ**

迷子やケガが多い ルールが守れない、落ち着きがなく授業中歩き回る、体を動かすことがやめられない、思い通りにならないと怒り出す

- **不注意が主なタイプ**

気が散りやすい 授業中に空想にふけっている
忘れ物が多い、物をなくしやすい、片付けられない

- **混合型**

＊ 従来子供は多動なもの・・・

特徴の有無のみでなく、「周りと不適応を起こすほど」や「発達段階にふさわしくない行動パターン」などから診断される。

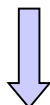
ADHDリスク児早期発見の手がかり

早期(乳幼児期)にみられる症状

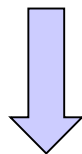
- ハイハイの頃からちょろちょろ動きが多く見ているのが大変な子供
- 乳児早期より過敏で泣くことが多かったり、睡眠パターンがつきにくい子供
- 歩くまではおとなしく育児が楽と思えた子供
- 歩行後まもなく多動性をみせる(追いかけてまわすのが大変)
- 言葉の発達に多少の遅れ、指差しの開始が遅れがち
- 2歳;衝動性が目立つ→公園などで他児の持っているおもちゃを強引にとる、思い通りにならないと言葉より先に手が出る。危険な所にも勝手に行ってしまう。
- 3, 4歳(幼稚園に入る頃);じっとできずうろうろする、集団から離れ勝手なことをする。感情コントロールが難しい

保護者の抱えがちな悩み(ADHD)

* ADHDのこどもは、保護者を毎日悩ませ続ける



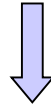
- ・叱る場面が多くなる 常にイライラした親子関係になりがち
- ・周囲からの誤解、非難・・・親のしつけがなっていないから！
(しつけ不足が原因ではない)
- ・自分の育て方が悪いから？・・・自責の念を持ちやすい
- ・父親に似ている？母親に似ている？



親子関係、家庭関係が円満でなくなることも・・・

ADHDの二次障害

常に怒られ、注意され続けると自尊心がもてず**二次障害**を生じることになる



- 非行
- 不登校
- 抑うつ的、不機嫌、気分が変わりやすい、怒りっぽい
- 不安、恐がり
- 友達関係の問題
- 薬物依存・薬物乱用
- 十代の妊娠
- 性感染症

ADHDの対応

● ほめる

- ・・・良い行動はすかさずほめる、シールなどのごほうびでやる気をアップさせる、自尊心が高まる

● 不適切な行動は無視

- ・・・ご褒美を減らす、くどくど叱らない

● わかりやすく説明

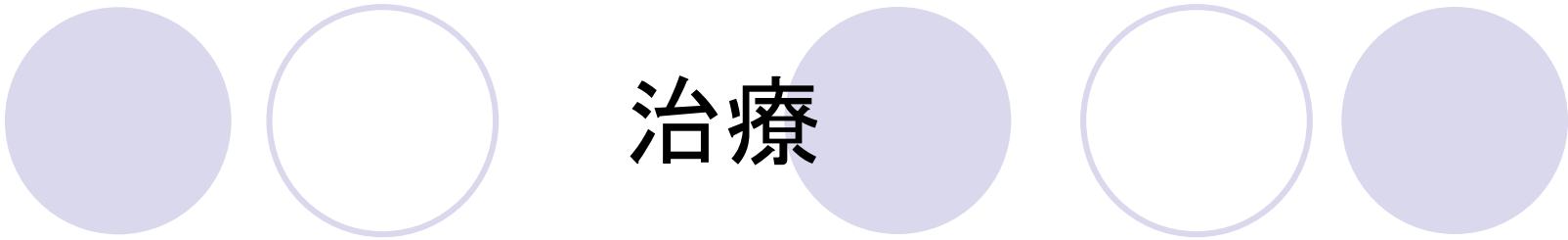
- ・・・「そこ」や「あれ」などの指示語を使わずに明確に言葉で指示する
シンプルで具体的な指示(1回にひとつだけ)、視覚に訴える(絵、カードなど)

● 共感からスタート

- ・・・行動にはそれなりの理由があります。一方的に注意するのではなく、なぜそうしたのかを聞いてあげる

● やり方を教える

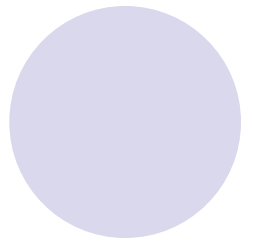
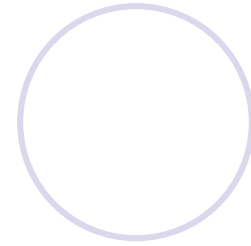
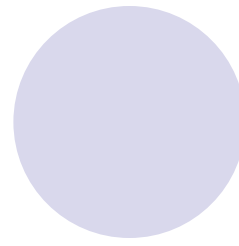
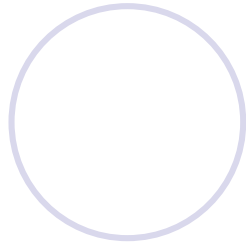
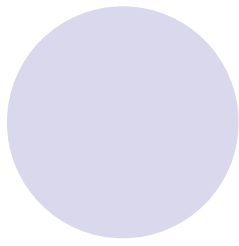
- ・・・「○○はダメ！」という否定形ではどうすればいいのかわからないままなので、「□□すればいいよ」と実際のやり方を言ってあげる



治療

● 教育・療育的支援

- 環境調整（集中しやすい環境づくり）、
生活指導
- ペアレント・トレーニング
- ソーシャルスキルトレーニング



- お薬による治療

- ・アトモキセチン、

- 塩酸メチルフェニデート

- グアンファシン塩酸塩

- リスデキサンフェタミンメシル酸塩

- ・その他・・・症状に応じて抗うつ薬、

- 抗精神病薬、情動調節薬、抗けいれん

- 薬、漢方薬など

幼稚園や保育所の中でできること

- ケガや事故には十分に気配りしましょう
- 「近づいて」「静かに」「穏やかに」話しかけましょう
- 興奮している時には叱らず、落ち着くのを待ちましょう
- 短くわかりやすい言葉で話しましょう

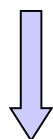
教室の環境調整や授業の進め方の工夫

- 席は先生の近くに
- 注意力をうばうものは取り除く
- 授業にカードや道具を取り入れる
- 教える内容を小さなステップにわけ
- 宿題は本人ができるレベルの内容と量を考慮する
- 理解度や内容によっては、個別の授業で対応する
- 活動エネルギーを使わせる工夫を（休み時間の使い方）
- 動いてもよい環境を作る（プリントを配る手伝いなどなど）

適切なサポートがみられなかった場合

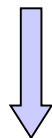
- 小学生（低学年）

- ・「他の子とは違うかもしれない」と周囲が感じはじめる
- ・衝動的な行動が目立ち、友人とのトラブルがしばしば起きる
- ・本人が気づかないうちに、友人に避けられたり、勉強嫌いになったりする



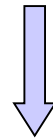
- 小学生（高学年）

- ・友人とのトラブルが続き、いじめや不登校を引き起こすことがある
- ・うまくいかない自分を嫌悪し、悲観的になりやすい
- ・授業についていけず、学習に遅れがみられるようになる



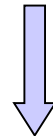
- 中学生、高校生

- ・多動性は少しずつ落ち着いてくるが、不注意が目立つようになる
- ・セルフ・エステームが低くなり、孤立しがちになる



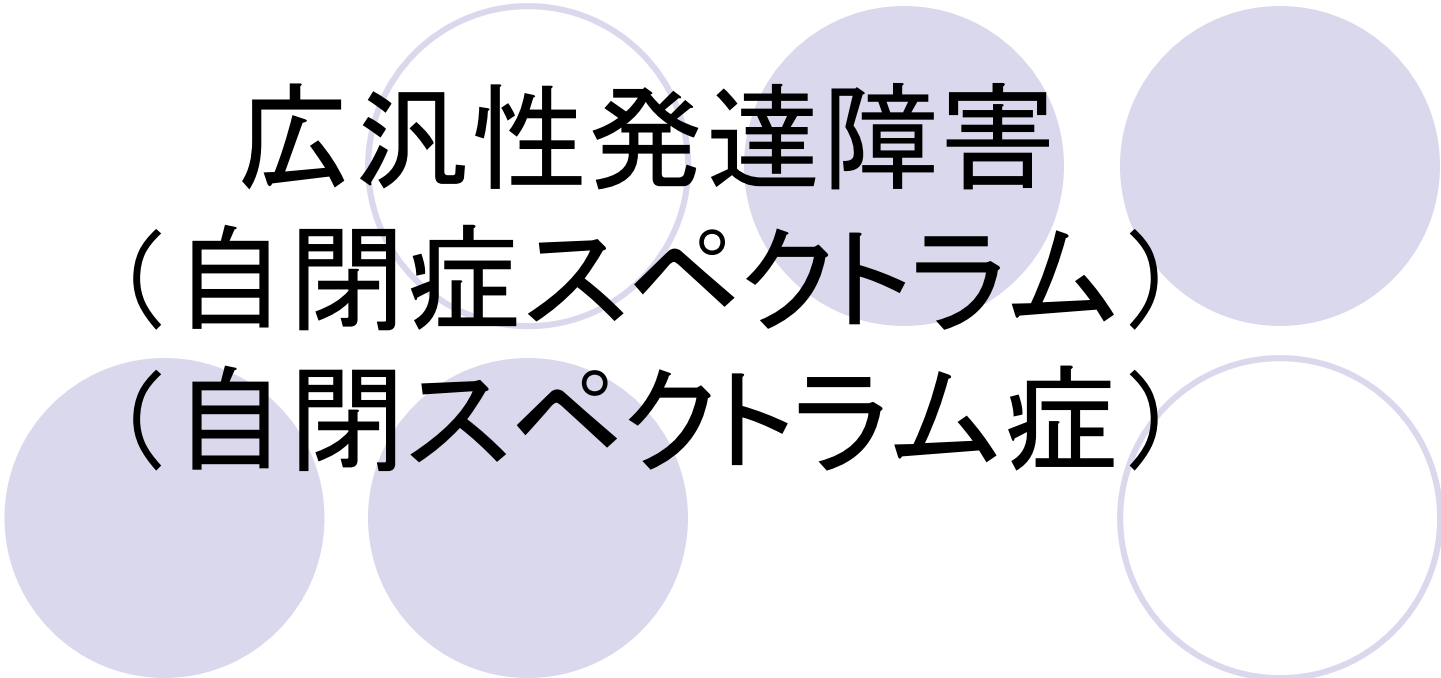
- 大学生

- ・一人暮らしの部屋を片付けられず、家事がきちんとできない
- ・授業のカリキュラムを自己管理できず、留年につながることもある



- 成人

- ・社会性が身につかず、頻繁に業務上のミスをしてしまうため、上司や同僚からの叱責が続く
- ・社会への適応が難しくなると、精神的な症状があらわれたり、アルコール等への依存がみられる



広汎性発達障害 (自閉症スペクトラム) (自閉スペクトラム症)

自閉症スペクトラムの基本症状

- 社会性（対人関係）の障害
- 言語によるコミュニケーションの障害
- 想像力の障害（興味、関心の偏り）



広汎性発達障害(PDD) (自閉症スペクトラム)

- 自閉性障害

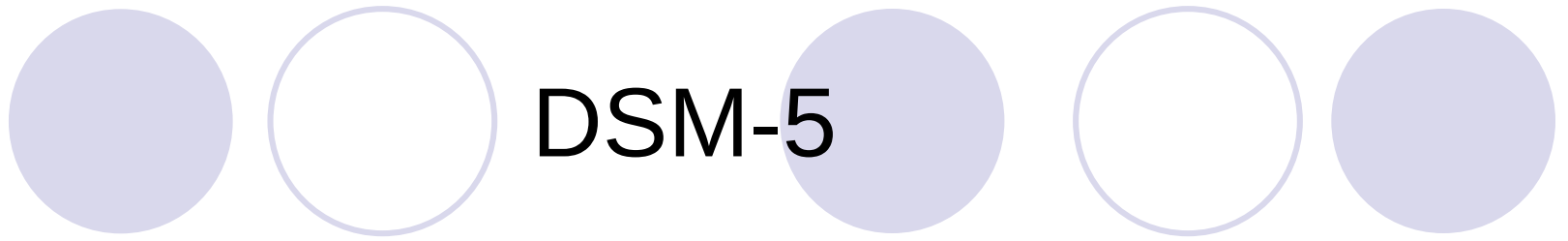
- ；言葉の発達に遅れがある(知的障害は約50%の例で見られる)

- アスペルガー症候群

- ；言葉の発達と知能に遅れない

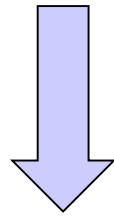
- 特定不能の広汎性発達障害(PDD-NOS)

- ；自閉症の特徴をもつが自閉症の診断基準を完全に満たさない軽症型



DSM-5

広汎性発達障害 (PDD)



自閉スペクトラム症 (ASD)

- 1) 社会的なコミュニケーションの力をもち人間関係を作っていくことが困難
- 2) 行動・興味・活動が限定されて、反復的・常同的なようすが見られる

社会性(対人関係)の障害

人と相互的にやりとりする事が困難

- 他人への関心が乏しく、よく一人で遊んでいる
- 視線があわない
- 抱っこされるなど、かまわれるのを嫌がっているようにみえる
- 表情が乏しい
- 人の気持ちを理解するのが苦手
- 共感を求めない

コミュニケーションの障害

言葉や、言葉以外の身振り、表情などを使って人とコミュニケーションすることが苦手

- なん語、ジェスチャー、指差しの発達の遅れ
- 話し言葉の発達の障害 オウム返しが多い
- 指示が理解できない
- 呼んでも振り向かない
- しゃべりすぎる 全く知らない人にだしぬけに質問する
- 人の表情や場を読むことができない。知的に高く、言語的な能力が正常でも、冗談や比喩などが理解できず、言葉通りに受け取ってしまう

想像力の障害とそれに基づくこだわり行動

気持ちや行動を切り替えたり、臨機応変に対応する事が苦手
予測と違うことにひどく混乱する
新しいこと、変化に不安を感じる

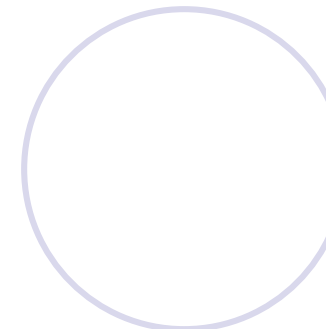
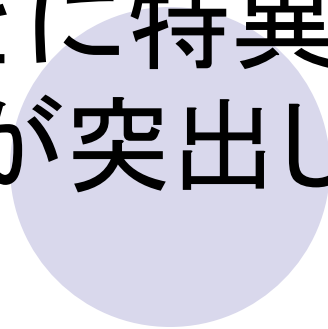
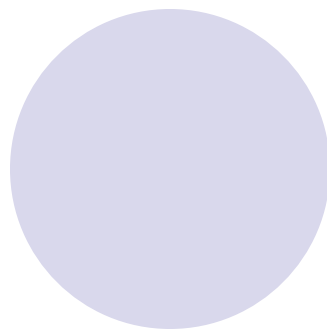
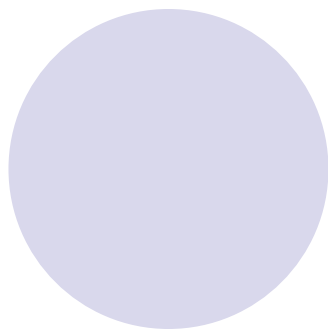
- ・手のひらをひらひらさせる 体をゆする ぐるぐるまわる
- ・物のにおいをかぐ 感触を楽しむ 横目を使って見る
- ・展開性の乏しい遊びを飽きずに繰り返す
- ・ごっこ遊び、見立て遊びが苦手
- ・特定の物を持つことに執着する
- ・物をえんえんと並べる
- ・日課や習慣などの変更に対して抵抗を示す
- ・几帳面で融通がきかない

感覚の偏り

聴覚、視覚、触覚、味覚、嗅覚などに偏りがある
(音・声・光・味・におい・肌触りなどに敏感すぎる、鈍感すぎる)

- ・赤ちゃんの泣き声に耳をふさぐ
- ・追いこしていくトラックの音におびえる
- ・シャワーを嫌う
- ・特定の舌触りのものを嫌う
- ・暑さ、寒さや痛み鈍感

計算力、記憶力などに特異な能力
が突出している



保護者が抱えがちな悩み

● PDD

- ・発達早期から親子の信頼関係が構築しづらいため、なぜ自分になつかないのかと悩む
- ・強いこだわりや頑固さに振り回され、生活に支障をきたす

● アスペルガー症候群

- ・知的に高く、言葉の遅れもなく達者であるため、障害と理解されにくく、変わっている子・へりくつやさんなどと、性格の問題と誤解されがち
- ・親も子も非難され、孤立しやすい
- ・対人関係が上手くいかず、クラスで友達ができない

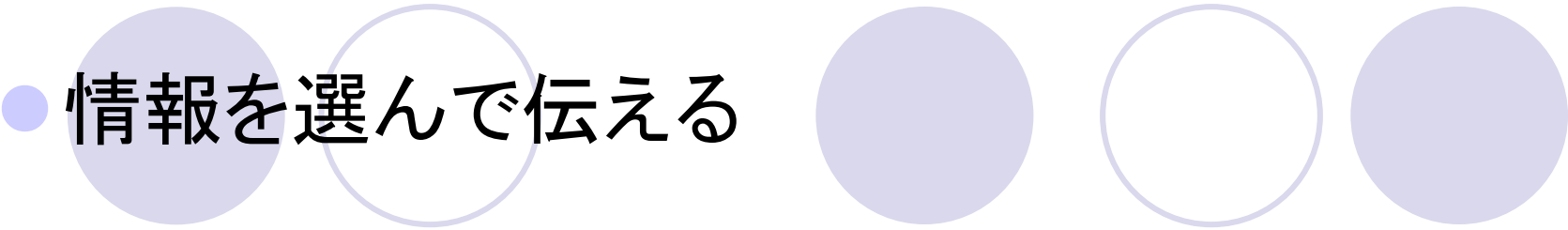
関わり方のポイント(PDD)

- 見える化する(視覚に訴える)

耳で聞く事は苦手、目で見えて学んで理解する

⇒写真、絵カード、道具などを使い説明する

- ・抽象的、あいまいなこと→具体的に、はっきり伝える
- ・見通しをたてておく→1日の流れ、今やる事、次にやる事
- ・時間の流れ→時計の文字と針、カレンダー



● 情報を選んで伝える

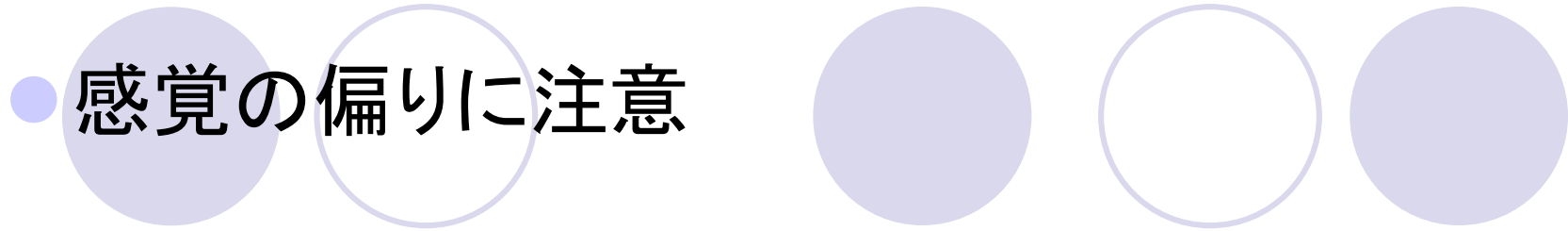
全体を把握するのは苦手
焦点がはっきりすると理解しやすい

- ・注目箇所を明確→色をつける、強調する

● 興味のあることに結びつける

興味、関心のある事に対する集中力が高い

- ・「やる気」を出させる→関心のあるものと結びつける
- ・子供にあった道でこだわりを生かせれば将来優れた成果を出すかも・・・



● 感覚の偏りに注意

何でもない刺激に、過敏であったり鈍感であったりする
→刺激に慣れさせようとするのではなく、刺激を減らす方法を考える

● 生活習慣の改善を目指す

- ・早寝早起きをしましょう
- ・三食きちんと食べましょう
- ・テレビ、ビデオ、DVDは時間を決めて見せましょう
- ・ゲームをする時間は決めましょう
- ・絵本の読み聞かせをしましょう
- ・ご挨拶をしましょう

- 不器用な子供には・・・

少し手伝いをしてあげて、最後までやる

→子供達に達成感を味わってもらうことが大切

- 安定した環境に

- 一貫したルールを

人によって対応が違っていると混乱する

→子供に接する先生同士で同じ情報を共有し、対応の仕方を一定にする

- 対人関係に配慮する

周囲の子どもに特性を説明したり、友達と関わる時にサポートを

- 社会的なルールを教える

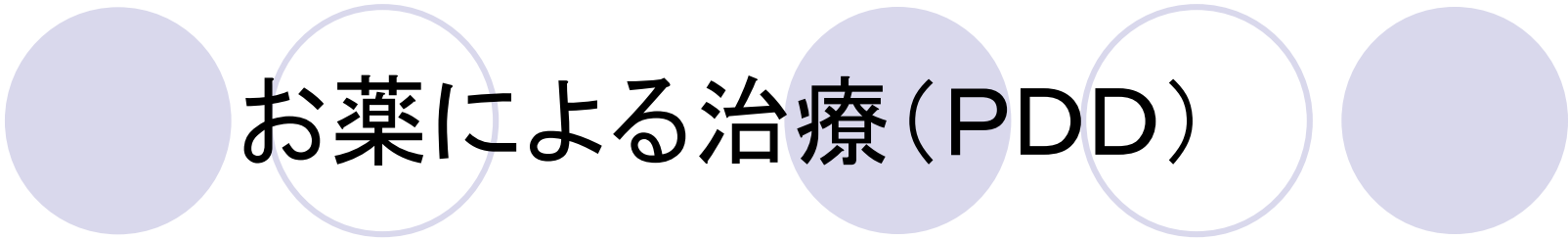
具体的な指示、肯定文での指示

- 自尊心を育てる

- 問題行動には原因を探して対処する

不適切な行動には必ず原因がある

- パニックの時は落ち着くのを待つ



お薬による治療(PDD)

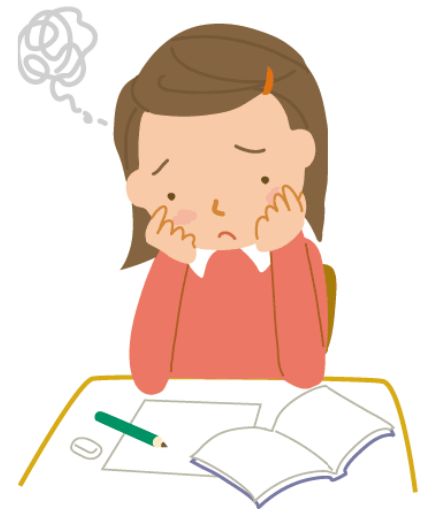
- 自閉症の基本的特徴を標的とした薬物療法は、**現在のところない**
- PDDの薬物療法は、適応障害などのいわゆる二次障害や、合併精神・神経疾患が対象となる
- 環境調整や精神療法でも十分な効果が得られない場合に薬物療法の併用が検討される

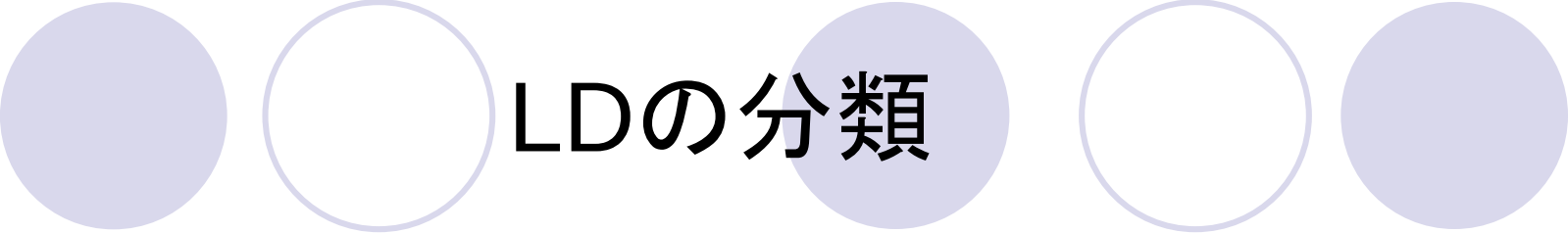


学習障害(LD) (限局性学習症)

LDとは

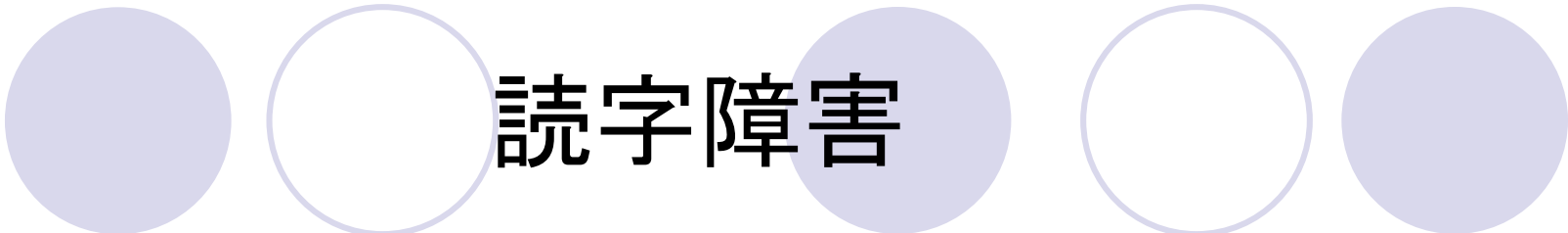
- 知能には大きな問題がなく、目も見え、耳も聞こえているのに、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」、「計算する」、「推論する」のいずれか1つ以上がうまくできない状態をいう





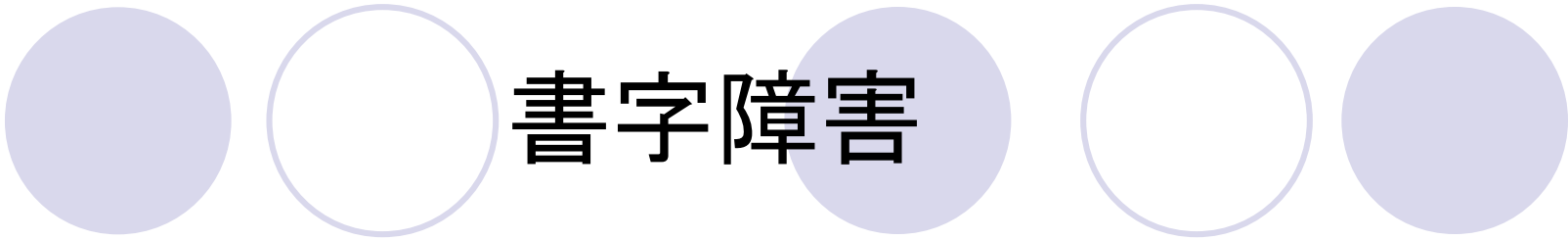
LDの分類

- 読字障害
- 算数障害
- 書字障害



読字障害

- 文字を読むことを嫌がり、長い文章を読むと疲れる
- なぞり読みをする
- 文章の音読に時間がかかる、比較的早く読めても内容をほとんど理解していない
- 行を抜かしたり、戻ったりする
- 文末を読み誤る(勝手読み)
- 一文字ずつは読めるが、単語や文章として読めない

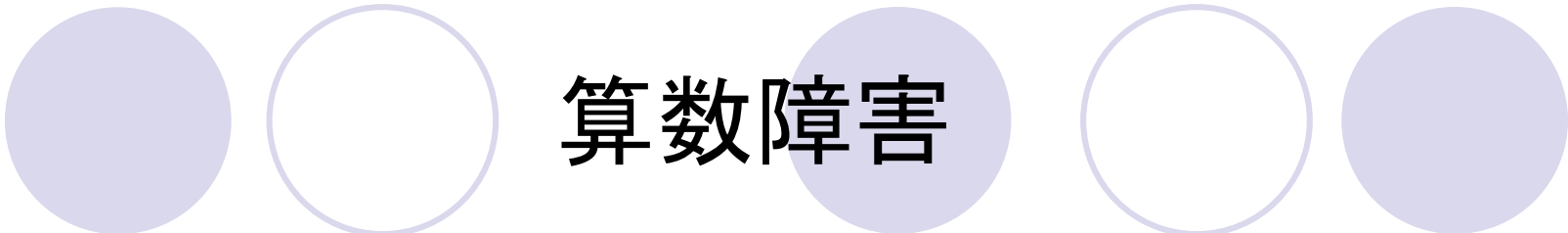


書字障害

- 字を書くことを嫌がり、文章を書くことを嫌う、文字を書くのに時間がかかる
- 漢字の書き順をよく間違えたり、書き順を気にしない
- 書いた文字をマス目や行に納められない
- 形・音・意味の似ている文字や単語への書き間違いがある

「雪」→「雷」 「草」→「花」

- 画数の多い漢字に誤りがある

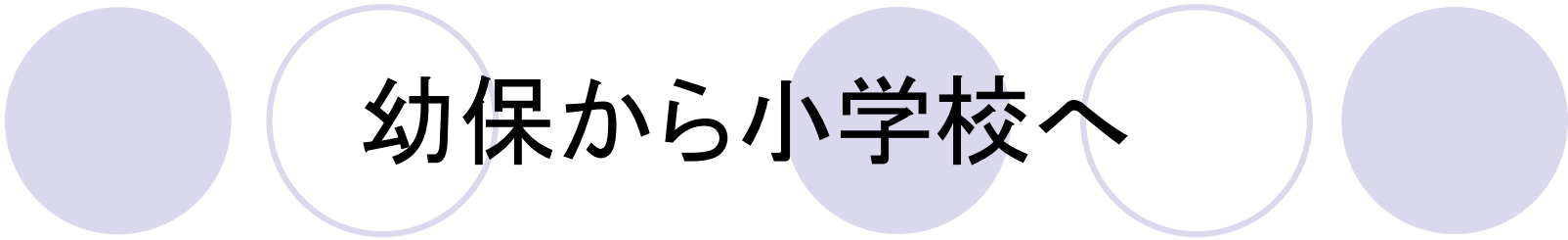


算数障害

- 数字が覚えられない
- 簡単な計算に指を使い、時間がかかる
- 10の分解ができない、繰り上がり、繰り下がりができない
- 筆算の桁がずれる
- 九九を暗記しても計算に使えない
- 図形の認知や構成ができないことがあり、数字や図形を正しく書き写すことができない
- 学年相応の文章題を解くのが難しい

指導の基本的な考え方

- 指導内容のスモールステップ化をはかる
- 教材の具体化をはかる
- 学習の速度に配慮する
- 繰り返し指導する
- フィードバックする
- 負担を減らす工夫（パソコンや計算機の使用など）



幼保から小学校へ

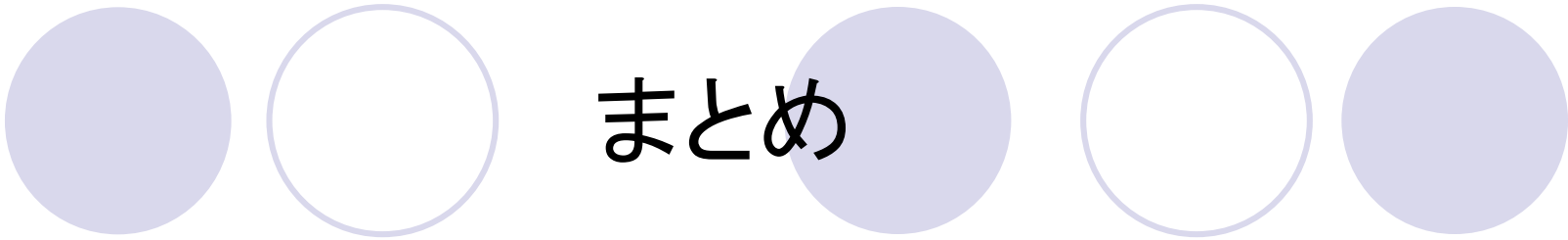
学校にあがるまでにしておきたいこと

- ・人との関わりの基盤を培う
- ・基本的な生活習慣を養う

食事、着脱・身だしなみ、トイレ、身の
回りのものの片づけ、人との関わり

- ・情動をコントロールする練習を開始
(・親に障害への理解を促す)

など



まとめ

- 子どもの力を伸ばし、生き生きした生活をめざす
- 「障害」は治せなくても子どもの「困り感」を減らす
- 親の協力者になる
- スモールステップ→達成可能なものから少しずつ
- 禁止よりも指示。指示はわかりやすく。
- 成功体験で終わらせる（自信をつける）
- 就学が本人にとって不安なく、スムーズにいくように早めに準備
- 話し合いの場をもつ（幼保、教育委員会、小学校関係者、保護者）情報共有！